黒井地区まちづくり計画書

『住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里』

平成28年度～平成37年度

黒井地区自治協議会

目 次

1 はじめに	
① 計画策定の趣旨	1
② 計画の期間	1
2 現状と課題	
① 現状と地域資源	1
② 課題	2
3 黒井地区の将来像	3
4 基本方針（目標）	3
5 基本方針に基づく実施事業(活動)	4～8
今後の展開について	9

1 はじめに

① 計画策定の趣旨

丹波市の支援を受け、身近な課題を解決し地域の特性や個性を生かした「新しい黒井地区づくり」を進めるため、平成19年4月1日に黒井地区自治協議会は発足し、「県民交流広場事業(平成17年度から21年度)」「丹波市元気な地域づくり特別事業(平成23年度から27年度)」で「住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里」をキャッチフレーズに地域づくりを進めてきました。今までの地域づくり事務作業の成果を評価し、平成28年度から更なる黒井地区づくりの展開を図るため、地域づくりの主役はあくまで住民の皆さんである黒井地区まちづくり計画を策定しました。

② 計画の期間

計画実行期間は、平成28年度から平成37年度までの10年間とします。
計画は、より良いまちづくりに向け、随時見直しを行って行きます。

2 現状と課題

① 現状と地域資源

生活するのに便利なまちである(黒井駅が・春日インターが近くに・スーパーマーケットや金融機関、さらに認定こども園かすが花の子園から県立高等学校までの教育機関)

自然が豊かで山には四季折々の花が咲く。(特に美しく咲く新川の桜並木・向山の日蔭のつつじは有名です。)

戦国ロマン漂う黒井城・興禅寺・兵主神社・春日神社・野村断層・黒井おどり・稲塚風流おどりなど歴史・文化の漂うまちです。

しかし、少子高齢化は避けられず、空き家・空き店舗・ひとり住まいなど、何処にでもある現象が私たちのまちにも見られます。

② 課題

(1) 全般

- ・ 少子高齢化時代が到来していますが、黒井の里は現在も生活するための施設はそろっており住みやすい里と考えています。

しかし平成27年8月の丹波市の人口は67,000人を下回り、今後もじりじりと減少していくものと推定できます。

各自治会でも空き家が増え、他の地域へ引っ越された家族の人数と、都会から帰って来られた家族のの殆どは夫婦お二人であり人数に大きな差ができています。

又、家庭内でも若嫁さんがパートにでるので、おじいさん・おばあさんが子守をするため趣味のスポーツ・娯楽に出席できないといったケースが増えています。

互いに助け合い、悩みを打ち明けられる場所づくりなど孤立しない地域づくりに取り組む運動が必要と感じます。

(2) 自然環境

- ・ 黒井の里の山は青々として美しい、しかし山に入ると「一人で山に行かないように」と言われるとおりに、枯れ木が多く、風の強い日などは本当に危ないと感じる。

竹やぶはどうして中に入ろうかと思うほど密生しているし、人工林は昼間でも暗く間伐されていない状態です。

そのような状態でも季節が巡ってくれば、花は咲き、若芽を出しています。

皆で知恵を出し合い大きな災害が起こらないよう考える必要があります。

(3) 安全・安心

- ・ 平日の昼間の地域内は高齢化しか目に付かない状況であり、高齢者にとっても、家族にとっても地域内の防犯・防災面においても不安定な状態であるといえます。

いまだに農家では、施錠せずに田畑に出られるところもあるように聞きます。

更に高齢化が近い将来やってきます。買い物・病院などへの交通手段の確保も重要な問題となるでしょう。

(4) 住民交流

- ・ 少子化により、学校から帰る子ども同士で遊ぶ機会がないので、家庭でのテレビやゲームに没頭する時間が多くなっています。

若い世代の地域行事への関心が少なく、年に何度もある神社での祈願祭運動会

・文化祭の催しにも参加しない、地域への愛着も薄くなっているように思えます。

若い人たちの関心事は何かを、大人が理解する事も大切であると考えます。

益々人口減となり、いろんな行事・イベントが困難になつていく中で、地域住民がその時代、時代でベストの方法を皆で考え行動して「明るく楽しい地域づくり」をつくりあげて行きましょう。

3 黒井地区の将来像

地域の将来の姿（目標）～キャッチフレーズ～

黒井地区は生活するのに便利であり、自然豊かで名所・旧跡が多くあります。しかし、時代の変化と急速に進む少子・高齢化に対し地域住民が自ら考え行動する住民主導・行政支援型の地域づくりに移行することとなり、今後のあり方を探ります。

『住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里』

地域の歴史・文化・自然資源を見直し、それらを地域の人たちに認識してもらうこと、それらを活用して行事に参加することによって、大人たちが地域資源を意識するだけでなく、子どもたちへ伝えていくことによって、子どもたちにふるさとを愛する心が育つことを願います。

4 基本方針（目標）：将来像の達成のための方向（重点目標）

基本方針

- 1 コミュニティを活かした参画と協働のまちづくり。（情報・自治）
- 2 一人ひとりを大切にするまちづくり。（人権）
- 3 いつまでも健康で安心して暮らせる、ふれあいと潤いのあるまちづくり。（福祉・健康）
- 4 自然と生活が調和し安全安心なまちづくり。（環境整備・防火防犯・交通）
- 5 人が輝き歴史と文化の薫るまちづくり。（学校・子ども・青少年・スポーツ・歴史文化）
- 6 地域を支え賑わいと産業活力を高める基盤整備を進めるまちづくり。（地域活力）

取組時期については、短期は1～3年以内、中期は4～6年、長期は7～10年ですべきことを表します。

5 基本方針に基づく実施事業（活動）

テーマ 1 コミュニティを活かした共生と協働のまちづくり

○ 情報

広報誌を発行し各戸配布し、情報の提供をする。

ホームページを開設し情報の提供をする。

○ 自治

各自治会の活動・商工会・各団体の活動の支援を行う。

各種教養講座の開設などを行いまちづくり活動の人材養成・確保を行う。

方針	取組内容	取組時期		
		短期	中期	長期
① 情報の提供	◎ 広報誌を発行する	○		
	◎ ホームページ開設	○		
② 拠点としてソフト	◎地域の拠点としてソフト及び備品の充実を図る		○	
	◎ シルバー世代の積極的な参画協働 サークル活動活力支援	○		
	◎桜祭りの支援 (商工会主催)	○		
	◎まちづくり活動の人材の養成と確保	○		

テーマ2 一人ひとりを大切にするまちづくり

○ 人 権

- ・ 人権を考えるとということは自分の生き方をより豊かにすることにつながります。他人の人権を守る取り組みは自分の人権を守り育てていくこととなります。今後とも、地域の課題を明らかにし具体的な啓発のあり方を検討し将来へとつなげていきたいと考えます。

方 針	取 組 内 容	取 組 時 期		
		短 期	中 期	長 期
① 人権を守り育てる	◎ 人権情報誌の発信 (各種団体、行政との連携)		○	
	◎ 区役員等に女性の参画		○	
② 学校との連携	◎地域と学校の連携した取組 (いきいき黒井タイム等)	○		

テーマ3 いつまでも健康で、ふれあいと潤いのあるまちづくり

○ 福 祉 ・ 健 康

- 福祉に対する住民の要望は多様化し、支援内容が他分野にわたってくる福祉・健康には行政との連携・協力が必要になります。
- 住み慣れた処で安心して生涯をおくりたいと思っています。健康で幸せな暮らしを支えるために、地域に根ざした支援を行います。

方 針	取 組 内 容	取 組 時 期		
		短 期	中 期	長 期
① 助け合い・支え 合う地域福祉の まちづくり	◎ 児童・生徒との世代間 交流の推進	○		
	◎憩いの場づくり支援	○		
② 地域住民の 健康サポート	◎ 健康講演会	○		
	◎健康機器の活用(ハートフル)	○		

テーマ 4 自然と生活が調和し安全安心なまちづくり

○ 環境 整備 防火防犯 交通

豊かな緑の山並みに囲まれ、四季の移ろいも感じられる環境を持っています私たちは、この自然環境・景観の保全と環境美化に努力することが大切です。

安全・安心な暮らしを守るには、自主防災組織での訓練や、防火用水の確保、防犯対策として、国道、県道、市道等に防犯灯の増設を行う必要があります。また、高齢化に伴い歩道の整備など、危険個所の解消を図らなければなりません。

方針	取組内容	取組時期		
		短期	中期	長期
① 環境整備生活	◎ 自然環境の保全	○		
② 防火防犯	◎ 自主防災組織での避難訓練等啓蒙活動	○		
	◎ 防火用水の調査点検	○		
	◎ 国道、県道、市道等共有場所の防犯灯の設置	○		
	◎ 防犯カメラの設置		○	
③ 交通	◎ 交通安全対策 (丹波警察の安全講話等)	○		

テーマ 5 人が輝き歴史と文化の薫るまちづくり

○ 学校・子ども・青少年・スポーツ・歴史文化

学校と地域住民との交流を深める活動を行います。

また、私たちの地区には、大切にし後世に残すべき歴史遺産が存在します。

これら歴史遺産を地域住民が学び、継承・発展させるための活動を展開し

市内はもとより県内・外からも人が集まるまちづくりを目指したいと思います。

方針	取組内容	取組時期		
		短期	中期	長期
①学校と地域が協力し、世代間交流	◎ 地域住民との交流を図るため、地域、環境、食を見つめる体験的な活動に取り組む		○	
	◎ 大人と遊びを通して心の豊かな子を育てる	○		
	◎ 生き物観察し、生命の尊さを教える	○		
	◎ 地域の子は地域で育てるをテーマにしていく。	○		
②子ども・青少年・スポーツに関して	◎ スポーツ振興の取組み	○		
	◎ 親子・地域が一体となったスポーツ	○		
③歴史遺産を学び、継承・発展させる為の活動を展開	◎ 歴史探訪(ウォーキングコース)案内板の設置		○	
	◎ 黒井城跡に方位地図の設置	○		
	◎ 黒井城の石垣・雑木等の整備	○		
	◎ 小学生に黒井城の歴史授業と発表会	○		

テーマ6 地域を支え賑わいと産業活力を高める基盤整備を進めるまちづくり

○ 地域活力

農産物のブランド化や特産品の開発・研究に参加して、今までになかった若い人たちの感性と創造力を活用して、地域を活性化させたいと思っています。

また、スイーツコンテストなどの大会を催し、優秀作品は地元で販売までいければと考えています。

方針	取組内容	取組時期		
		短期	中期	長期
①県立氷上高等学 高とのコラボで 特産品の開発	◎ 特産品開発研究協議会 (仮称)つくり今後の協働の 仕組みづくり		○	
	◎ 農産物のブランド化に 取組む(食品加工科・農業 科)			○
②食の祭典を行う	◎ スイーツのコンテストを 開催する			○

今後の展開について

まちづくりの主役は、住民の皆さんであるということの認識が必要です。
黒井地区自治協議会は、住民の皆さんはもちろん、自治会・各種団体
・行政と連携しながら、参画と協働のまちづくりを展開していくための
コーディネーターという役割を果たします。

また、「まちづくり計画書」に沿った黒井地区のあるべき姿に向け、今後も活動を進めたいと考えております。

これからは、「まちづくり計画書」に基づき活動が展開されることとなりますが、その都度、活動内容を評価し、修正・改善を加えながら、キャッチフレーズのような『住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里』を目指してまいります。

履歴

(1) 平成28年 2月29日 作成

参考 本文に見直し挿入
済

平成 27 年作成 黒井地区まちづくり計画書

① 計画策定の主旨

丹波市の支援を受け、身近な課題を解決し地域の特性や個性を生かした「黒井地区づくり」を進めるため、平成 19 年 4 月 1 日に黒井地区自治協議会は発足し、「県民交流広場事業（平成 17 年度から 21 年度）」「丹波市元気な地域づくり特別事業（平成 23 年度から 27 年度）」で「住んでよし、訪ねてよし、歴史と文化を育む黒井の里」をキャッチフレーズに地域づくりを進めてきました。今までの地域づくり事務事業の成果を評価し、平成 28 年度から更なる黒井地区づくりの展開を図るため、地域づくりの主役はあくまで住民の皆さんである黒井地区づくり計画を策定しました。

(地域の基盤整備を進めるまちづくり を支援する)	活力	校とのコラボで特産品の開発	(仮称)つくり今後の協働の仕組みづくり	○				研究費 100×3	研究費 100	400	
			◎農産物のブランド化に取り組む(食品加工科・農業科)		○				研究費 200	活動費 150×4	800
小計						0	0	0	300	900	1,200
合計						880	1,580	680	2,240	2,620	8,000